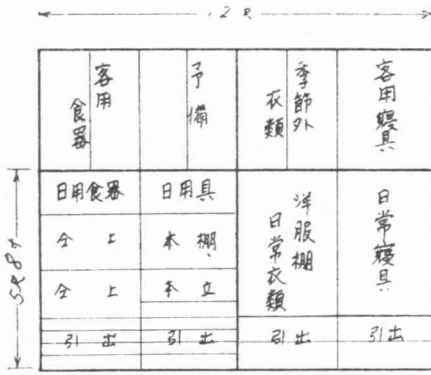


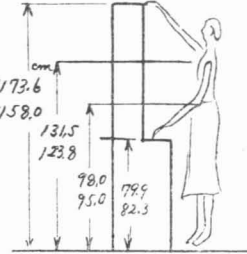
琉球大学学術リポジトリ

夏甘藍栽培の要点

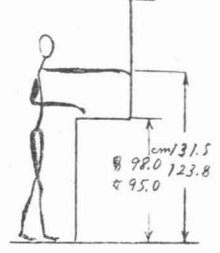
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 滋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19627



第二図 押入改造



第一図 B



第一図 A

変化に応じて幾通りの機能を發揮するということを目的としている。従つて次のことからの特性が指適される。

- (1) 一つの単位が積重ねられたり、並べられたりして新しい機能を生み出す。
- (2) 一つの単位がいろいろの使い途に向くような単純な形態である。
- (3) 必要に応じて数も増加でき、しかも統一あるデザインで室内をまとめることができる。
- (4) 住居の規模に変化が生じても組合せや、数の増減により帯に使用できる。
- (5) 季節や気分に応じて、室内の模様を手軽に変えることができる。

最近の小住宅の傾向によく見かけるように、玄関、居間、厨房、客間を一部屋とした、明快なワンルームシステムがある。これは建築面積の小さい場合、きわめて合理的な考え方であつて、旧来の日本住宅のもつ無駄な形式主義を排して、床面の機能的な処理として、次第に發展していくと思う。たゞこの場合、間仕切としての両面より使用の出来る棚架の配置によつて、家具の機能も發揮出来るような工夫が必要である。間仕切用棚の利用は、同じ面積を壁によつて小部屋に仕切つた場合よりも、はるかに広く感じられ、又スペースの使用目的に転換性をもたせることができる。(終) (岸 本 幸 安)

読者だより

問 竹の適地について、峯通りや中腹以上の風当りの強い山地は不適だと書かれてあります。然しリウキウチクは国頭村の峯通りや中腹以上に繁茂しており又西表島の高い峯々頂上にはゴザダケササばかりであり従つてそこが適地かと思ひます。
先生の竹とはマダケかモウソウチクに限定された方がよいのではないのでしょうか。
(八重山宮林所・金野幸藏)

答 リウキウチクやゴザダケササの大然分布はたしかに峯通りや山の頂上附近に多し。

然し風当りも弱く、表土も深く土の水分条件も天然分布地域よりはよいと思はれる国頭及西表方面の中腹以下の適潤地の開墾跡地や伐採開放地にたまたま侵入して生育している。尚種はとも竹幹の大きさも高さが見違える程優秀な生育を上げていることを又見逃してはなりません。

リウキウチクやゴザダケササがマダケやモウソウチクより耐乾性が強いが、然し尚種とも天然分布地域の風当りの強い土の乾燥した山頂附近よりは風当りも弱くて表土が深く適潤な中腹以下の地帯がよりよい生育を上げ得る適地であります。

樹種の適地選定に當つては天然分布地域の環境にとらわれすぎることなく、生育を上げ得る場所を選ぶことが大切で、陽光調節は造林撫育に當つて技術にそつて人工的に行うものである。
(大 山 保 表)

あとがき

沖縄における水稻の二期作は、その前途に早急に解決すべき問題が山積され、その増収をはぐんでいきます。いさゝか時期的にそれを感ずるが今年は気象不順のため例年より二期作のスタートが遅れた地域が多いように見受けられますので、二期作水稻栽培の基本である播種、育苗を中心に執筆していただきます。これからスタートされる農家の方々の参考になれば幸いです。
訂正 七月号の六頁中段、育苗の項四行目の、全然結球せず抽苔する。は花芽を作るので品質を悪くするの誤りで訂正します。八行第三字に、が、四五月の播種は栽培が困難である。を挿入して下さい。

発行所 琉球大学農家政学部
発行人 島 袋 俊 一
印刷所 沖繩タイムス社